

第3回中心市街地グランドデザイン策定委員会 議事録

1 開催日時

令和3年11月26日（金）15時00分から

2 開催場所

小牧市役所 本庁舎6階 601会議室

3 出席委員（名簿順）

大塚 俊幸	中部大学
鶴田 佳子	岐阜工業高等専門学校
副島 孝	公共交通利用促進協議会
高橋美喜雄	小牧市観光協会
加藤 紀文	小牧にぎわい隊
犬飼 武彦	小牧市歴史ガイドボランティアたぶの木会
日比野 俐	都市景観形成重点地域の景観を守る会
廣瀬 昌美	公募委員
伴野 純二	公募委員

4 欠席委員

生田 京子	名城大学
名和 千博	小牧商工会議所
眞水 明子	ラピオ通り商店街振興組合
水野 嗣則	小牧小学校区地域協議会
秦野 利基	こまき市民活動ネットワーク
永渕 七恵	公募委員

5 事務局

鵜飼 達市	都市政策部長
笹尾 拓也	都市政策部次長
丹羽 智則	都市政策部都市計画課長
馬庭 貴彦	都市政策部都市計画課都市計画係長
立山由希子	都市政策部都市計画課都市計画係主事
水野 美沙	都市政策部都市計画課都市計画係技師

6 傍聴人数

3人

7 会議内容

1 議題

- (1) 中心市街地グランドデザインまちづくりワークショップの報告について
- (2) 第2回策定委員会の振り返りについて
- (3) 小牧市中心市街地グランドデザイン（案）について
- (4) その他

■議事録

【事務局】

本日は、お忙しい中御出席いただきましてありがとうございます。

ただいまより第3回小牧市中心市街地グランドデザイン策定委員会を開催させていただきます。

本日進行を務めさせていただきます、都市政策部次長の笹尾でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、資料の確認をさせていただきます。

本日の資料は、次第に記載させていただいたとおり、資料1から3、参考資料として1と2があります。また、お手元には、本日欠席の委員から頂いたグランドデザイン（案）に対する意見をまとめたものを配付させていただいております。併せて御確認いただきまして、不足等ございましたらお申し出いただきますよう、よろしくお願いいたします。

それでは、次第に沿いまして進めさせていただきます。

初めに、大塚委員長より御挨拶を頂きたいと思います。よろしくお願いいたします。

【大塚委員長】

皆さん、こんにちは。

本日は3回目ということになります。前回、第2回はグランドデザインの素案という形で案を提示していただいて、それについて皆さんから多くの御意見を頂いたところです。本日の資料は、いただいた御意見を案の中に組み込んだ計画（案）としています。

次の段階として、これをパブリックコメントにかけていくということになります。本日は、前回皆さんから頂いた御意見が、皆さんの意図に合ったような形で修正されているかというところを点検していただきながら、さらに加筆修正すべき点があれば御指摘いただいて、この会議でパブリックコメント（案）を作り上げていきたいと思っておりますので、活発な御意見を出していただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。

それでは、会議の進行につきましては、小牧市中心市街地グランドデザイン策定委員会設置要綱第4条第2項に基づき、委員長が会務を総理することとなっておりますので、大塚委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【大塚委員長】

それでは、お手元の次第に従いまして議事を進めさせていただきます。

まず、議題（1）中心市街地グランドデザインまちづくりワークショップの報告について、事務局から御説明をお願いいたします。

【事務局】

議題（１）中心市街地グランドデザインまちづくりワークショップについて報告させていただきます。

資料１をお願いしたいと思います。

ワークショップは、７月から１０月にかけて全３回を実施いたしまして、中心市街地の目指す姿である、訪れたいまち、住みたいまち、活力があるまちという３つのテーマごとに分かれてグループワークをしていただきました。前回、第２回の策定委員会では、全３回中の２回目までのワークショップの内容を報告させていただいたところであります。

全体の実施概要につきましては、１枚目にまとめてありますので、お目通しいただければと思います。

２枚目をお願いいたします。

こちらが、第３回目のワークショップの結果を取りまとめたものになります。第２回目までに取りまとめた取組案の中で、重要だと思う施策について話し合っていました。

資料の中で赤枠で囲っているものが、ワークショップの参加者が重要だと考えた取組となります。

訪れたいまちのグループでは、にぎわい広場での若者を対象としたイベントの開催、また、飲食や休憩ができるようなオープンカフェやパークレット等の設置、小牧駅から小牧山までの景観づくりなどが重要であると感じた方が多かった取組であります。

次に、住みたいまちのグループでは、子どもが遊べる空間整備、子育て世代の交流する機会の創出、高齢者が生き生きと暮らし続けられるまちづくり、続いて、駅西公園及び駅東公園のスペースの活用方法の検討、小牧の文化や歴史を子どもたちに伝える活動の推進、中央図書館やメナード美術館といった施設や資源の活用・推進などが重要であると感じた方が多かった取組であります。

続いて、活力あるまちのグループにつきましては、特徴ある店舗や人気店の立地促進、若い世代を対象としたイベント開催、名古屋市など近隣都市間のバスネットワークの充実が重要だと感じた人が多かった取組となっております。

このワークショップで出た結果を受けまして、計画案につきましても前回の委員会から見直しをかけております。詳細につきましては、議題（３）グランドデザイン（案）で説明させていただきます。

以上、簡単ではございますが、中心市街地まちづくりワークショップの報告とさせていただきます。

【大塚委員長】

ありがとうございました。

こちらにつきましては３回行われたワークショップの報告ということになります。このワークショップの結果を踏まえたグランドデザイン（案）については後ほどお示しをいただくこととなりますが、ワークショップ自体に関して何か御質問いただくことがあればお受けしたいと思います。いかがでしょうか。

前回、２回のワークショップを踏まえたまとめ、報告を頂いていますが、それに３回目の結果を追加したものになるかと思っています。赤枠のところ、参加者の方々が特に重要と考えられたものであるというところで、こうしたことが案の中にも盛り込まれてきている形になっているか

と思います。

【高橋委員】

高橋です。

前回もそうですけれども、今回も飲食店が欲しいということが結構書いてあります。前回、部長さんから、それについてオーナーが貸したがないということを言ってみえましたが、こんなことはもう 10 年前から言われていることで今に始まったことではないですね。

私は加藤委員とにぎわい隊もやっていますけれども、4、5 年前に飲食店などの誘致を働きかけたりして、補助金出してやってきました。今また、私、中心市街地の選定委員もやっていますけれども、その中で出てくるのはネイルとか美容院、保育園ばかりです。

オーナーが貸さない貸さないって言われますけれども、市役所はこの間何をやってたのかなど。例えば、オーナーに何らかの形で保証するから飲食店に貸して欲しいとか、または、私はいつも市役所が買い上げれば良いというような極端なことを言いますけれども、これについては何をやられていたのですか。ずっと前から飲食店というのは、どんな会合をやっても挙がってくるんですが、その辺りをお聞きしたい。

【事務局】

都市政策部長の鶴飼でございます。

今お話がございましたように、飲食店の立地に関しましては、前回、立地が進まない要因の一つとして、貸店舗をお持ちのオーナーの方が飲食店にはなかなかお貸しにならないということは確かに申し上げました。そういった要因もあるということをお願いしたのですが、その話は過去からずっと同じではないかという御指摘で、高橋委員のおっしゃるとおりでございます。

その間、市は何をしてきたのかという御指摘でございますが、実際のところ、その課題に対する効果的な施策が打てていないのが現状でございます。飲食店の出店に対する行政側の何らかの支援は、過去から言われていることではありますが、こうして改めてグランドデザインの策定を進める中でやはり大きな課題であるということは確かなものとなっておりますので、何らかの効果的な施策、多くの市民の皆さんが御理解いただける範囲にはどうしてもなってしまうんですが、検討を進めてまいりたいと思いますので、御理解をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【大塚委員長】

空き店舗対策はもう 10 年 20 年ぐらい前、かなり全国的に取り組まれたことがあります。そのときは、オーナーが安心して貸せないのは、貸してしまうと様々な煩わしいことがある、あるいはそれを信用していいのかどうかというところで、貸す人と借りる人の間に何らかの中間的な組織が立ってそれをコントロールしていくことによってうまく回っていく。そういう第三者組織、例えば TMO とか商工会議所、あるいは商店街振興組合がその役割を担ったりするなどいろいろありますが、そういう組織が間に入ってコントロールしていく。これまで小牧市がどこまで検討されてきたかというのは把握していませんが、引き続きそういうことはやっていかないといけないのかなと、今の高橋委員のお話を伺って改めて思った次第であります。

できないのであれば、できるようにどうしていくのか、というのを考えないといけないというのが高橋委員の御指摘かと思いますがよろしいでしょうか。

【高橋委員】

はい。

【大塚委員長】

ほかによろしいですか。

それではこの件につきましては以上とさせていただきます。

続きまして、議題（２）第２回策定委員会の振り返りについて及び（３）小牧市中心市街地グランドデザイン（案）については、それぞれ関連がありますので一括の議題とさせていただきます。事務局より御説明をお願いいたします。

【事務局】

議題（２）第２回策定委員会の振り返りについてと、議題（３）小牧市中心市街地グランドデザイン（案）についての説明をさせていただきます。

初めに、第２回策定委員会の振り返りをさせていただきます。資料２をお願いいたします。こちらに前回の各委員の発言内容をまとめてありまして、発言内容ごとに対応方法を記載しております。

前回の主な議論の１つが、「住みたいまち」に関するものであったかと思えます。まず、定住については、中心市街地に限った話ではなく、柱として掲げる必要があるかといった御意見もありましたが、まちの活力やにぎわいは、訪れる人とそこに住む人たち双方のコミュニティが活性化されることも重要であること、また、コンパクトシティの形成促進に向け、居住誘導区域である本計画区域も定住を促進する必要があることから、「住みたいまち」を柱として掲げております。

なお、参考資料として、本市の定住促進事業について簡単にまとめたものを添付しておりますので、参考にしていただければと思います。

また、良好な住環境が何を指すかイメージしにくく、この委員会の中でも議論ができていないという御意見も頂きましたが、先ほど報告しましたワークショップで、テーマごとにグループワークを行っていただきました。ワークショップでは、中心市街地は生活利便性の面では暮らしやすいと考える方がいる一方で、公園や緑の整備、子育て支援の充実などが必要であるという意見があり、それらを踏まえ、生活利便性が高いまちなかへの居住を推進するとともに、公園など人々が安らぎを感じられる空間整備と、地域で支え合うまちづくりを推進することで良好な住環境を創出していくという形で整理いたしました。

今申し上げた内容につきましては、後ほど計画案の中で説明いたします資料３の施策の説明部分に記載させていただいております。

また、資料２の２ページ、秦野委員から将来像についての御意見を頂きましたが、本計画は都市計画マスタープランに即す計画であるため、将来像は都市計画マスタープランの地域別構想におけるまちづくりの目標としております。この将来像の実現のため、中心市街地が「訪れたいまち」、「住みたいまち」、「活力があるまち」となるよう、施策に取り組んでいくこととしております。

そのほか、具体的な取組内容に関する御意見につきましては、施策にひもづく取組の中で今後検討していくという形にさせていただいております。

第２回策定委員会の振り返りについては以上であります。

続きまして、中心市街地グランドデザイン（案）について御説明させていただきます。

なお、こちらの計画案につきましては、前回の策定委員会で皆様からの御意見などを受け変更した箇所について御説明させていただきます。

資料3の21ページをお願いしたいと思います。

前回の案の中では、目指す姿と取組方針を分けておりましたが、大塚委員長より、目指す姿の説明部分と取組方針が似通った表現になっているため、目指す姿として一つにまとめてはどうかと御意見を頂きました。修正をさせていただき、目指す姿と取組方針といった形で一つにまとめております。

また、「訪れたいまち」の施策ですが、以前は、1-1が歩道・広場空間の魅力向上、1-2が歩いて楽しい歩道ネットワークの構築、1-3が歴史・文化資源の活用としておりましたが、未来館や図書館といった施設や小牧の歴史・文化資源を活用して中心市街地に訪れてもらう人を増やし、その拠点に訪れた人が歩いて楽しめる中心市街地を目指すという形に整理いたしまして、1-1には、こども未来館・中央図書館等の魅力を生かしたにぎわいの形成、1-2として、歴史・文化資源の活用、そして、以前は2つに分かれていた歩道関係をまとめて一つにいたしまして、1-3として、歩いて楽しい歩道ネットワークの構築とさせていただきました。

23ページをお願いいたします。

こちらは施策ごとの取組内容及び想定される取組を記載してありますが、前回から変更した点につきましては、施策1-1のこども未来館・中央図書館等の魅力を生かしたにぎわいの形成の取組内容に、①としてこども未来館や中央図書館への集客を周辺のにぎわいへと波及させることを記載しております。

次ページをお願いいたします。

②といたしまして、以前の施策1-1の歩道・広場空間の有効活用に置いておりました内容となります。また、以前の施策1-1に置いていたもう1つの取組内容である、沿道店舗等の歩道の利活用の検討につきましては、施策1-3に追加させていただきました。

なお、施策1-3の取組内容の④図書館跡地の利活用につきましても、以前はもう少し具体的な内容を記載しておりましたが、幅広い活用方法を検討していけるよう表現を修正しております。

26ページをお願いいたします。

続きまして、「住みたいまち」についてであります。こちらは、先ほど説明いたしましたとおり、取組方針の下の説明を修正しております。

次に、施策内容であります。施策2-1のまちなか居住の推進の取組内容といたしまして、以前は、①として良好な住環境の形成としていましたが、多様な手法による住宅供給の促進としております。

また、防災の視点を追加いたしまして、②に安全に暮らせるまちなかをめざすとしております。

ここで、1点資料の訂正をお願いいたします。①の多様な手法による住宅供給の想定される取組の3つ目であり居住希望者への支援策の充実ですが、説明文が「居住者に対して」となっておりますが、正確には「居住希望者に対して」となりますので、申し訳ございませんが訂正をお願いしたいと思います。

次に、施策2-3地域で支え合うまちの創出の取組内容といたしまして、28ページになりますが、④として地域コミュニティ活動の推進を追加しております。

30ページをお願いいたします。

活力あるまちの施策、3-3利便性の高い公共交通ネットワークの充実の取組内容として、③駐車

場の必要十分な台数の確保を追加しております。

31 ページをお願いいたします。

第4章の計画の推進体制や進捗管理についてであります。前回は、計画の実現に向けた方針と、次ページ、計画の推進体制を合わせた形で図示しておりましたが、方針と推進体制とを区別し、それぞれ表示することとさせていただきます。

33 ページをお願いいたします。

中心市街地グランドデザインの進捗状況を把握するため、3つの目指す姿ごとに指標と目指す方向を設定しております。なお、基準値につきましては、令和3年度の実績を記入させていただきたいと考えており、把握次第記載いたします。この指標を定期的に把握し、また、事業の実施計画であるアクションプランを作成することで事業の進捗管理を行い、計画期間の中間年度には計画の見直しを行うこととさせていただきます。

以上、計画案について、前回からの変更点を御説明させていただきました。

また、本日欠席の委員から頂いた意見につきましては、机の上に配付させていただいた資料のとおりであります。

御議論のほど、よろしくお願ひしたいと思います。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

ただいま事務局から、前回の委員会の振り返りと、それを踏まえた修正案が示されて御説明をいただきました。また、本日欠席の委員から事前にいただいた御意見が机上に配付されているかと思ひます。委員のお三方から御意見を頂いておりますので、それも含めまして、委員の皆様から御質問、御意見をお受けしたいと思います。

前回皆さんに御発言いただいた内容に対する修正等を御確認いただいて、何かお気づきの点があれば御発言いただければと思ひますが、いかがでしょうか。

【伴野委員】

この修正に関しても本当にすごいなと改めて感心しています。

今回、来街者という形で表現が出てきていますが、辞書を引いても出てこない言葉で、インターネットで検索すれば出てくるのですが、ここでいう来街者というのはどういうものを表すかを確認したいです。

インターネットでは、来街者という場合には、地域住民と観光客を表すとありました。ここに出てくる来街者とは、多分地域住民の方を言っていると思うのですが、もう少し明確に表現する方法はないかなと。

3ページの計画の対象範囲というところでは、来訪者という記載があります。来訪者という言葉がなくなって、後半で来街者という言葉になっていますので説明していただければと思ひます。

また、細かいですが、こども未来館の表現の仕方で、最初はこまきこども未来館という表現で、あとはこども未来館と書いてあります。こまきこども未来館という表現の仕方、幾つかまた後から出てきたと思ひますので合わせた方がいいと思ひます。

これはあくまで校正になりますが、鍵括弧の扱い方です。

マークの名称は分かりませんが、れきしるこまきのところで書いてあるマークは鍵括弧ではいけ

ないのかと。

とりあえずは、来街者の表現するところをお願いします。多分、各自治会、自治体では出てくる言葉だと思いますが、我々はよくわからない。来訪者との使い分けをお聞きしたいなと思います。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

私も普段来街者という言葉を使います。来訪者、来街者という名前が出てくるわけですが、そのあたり使い分けているのかどうか、そもそも来街者とはどういう意味で使われているのかということころをまずは御説明いただけますでしょうか。

【事務局】

来街者と来訪者という表現が2つ出てくるということで、事務局としては使い分けをしている意図はなく、統一性がなかったと思っております。

まちへ来てくれる方というイメージで事務局としては捉えている形でありますので、言葉の使い方を統一して、適正な言葉に変えていきたいと思います。

【大塚委員長】

3ページ目に来訪者というのは出てくるのですが、来街者がどこで出てくるか探せていないです。少なくとも3ページは市民や来訪者っていうところですから、ここは恐らく市外から小牧にやって来る方という意味だというのはわかるのですが、それ以外のところで来街者はどのように使われていますか。

市民や来街者というと、私としては違和感があります。来街者の中には、やはり市民も、観光で来る、外から来る人も含めてその街にやってくるというふうな意味で通常使うのではないかなと思いますがいかがでしょうか。

私の認識とは違うかもしれませんが、齟齬がなく使われているのであればいいと思うのですが、市民が、来街者がというふうに使われているとおかしなところもあるので、精査というか確認をしていただく必要があるかなとは思っています。

【伴野委員】

言われていることはそのとおりだと思います。まちづくり協議会にも来街者っていう言葉が出てきますから、この場合の来街者っていうのは小牧市の地域住民を含めてという意味だと思います。その意味はわかるのですが、表現の仕方としてどうかというだけです。

私もはっきりしないのですが、来街者という言葉で前回出てきた地元住民というのをうまく隠しているなというか、そればかり捉われないようにしたのが来街者ということで作ってあったかと思っています。

中心市街地グランドデザインの推進ということで、これは前回には出てきませんが、市民・商店・来街者のまちづくりって書いてあったので、ここの意味の来街者というのは市内の地域住民のことを表すだろうと思います。このページだけ市民・商店・来街者のまちづくりの参画や担い手と出てきていて、ここで来街者とは何かということになると、図面どおりということになるのですが、3ページの来訪者とつながりがあったのかということなんです。先ほどおっしゃったように市民と来訪者

と書いてあるのは、ここでは市民・商店・来街者と並べては書いてありますけどね。言われていることはよくわかりました。

【大塚委員長】

そのほかに、伴野委員が御指摘いただいたことも未来館。正式名称を使うのであれば、そのまま全て正式名称を使うか、あるいは最初に正式名称を使ってあとは以下何々という略称でやるということで、統一性を持たせたようなものにしていく方がいいのではないか。鍵括弧をつけるのであれば意味をよく確認した上で最終案としてくださいという御意見だったかと思いますので、その辺りは精査していただければと思います。

前回の御指摘で、私の印象に残っている大きな修正点が2つあります。

1つが、「住みたいまち」とは一体何というところですか。良好な住環境とは一体何だろうかというイメージが共有できていないのではないかとという点が1つあったかと思います。

もう1つ、秦野委員からの御指摘で、将来像が伝わりにくいという点です。順番でいきますと20、21ページのグランドデザインの体系というところですか。前回、私の理解不足で混乱させてしまったかもしれませんが、将来像自体を再検討みたいな話をしてしまいました。そもそも都市計画マスタープランでこの中心エリアの目標がこのように設定されておりますので、それに従い前提に持ってきていただいて、全体の体系を組み替えていただいています。

1つ目の「住みたいまち」については、26ページの取組方針の四角枠の下2行目から、この地域には周辺に比べて高い生活利便性がもう既にあり、それに加えて、さらに公園など人々が安らぎを感じられる空間の整備や地域で支え合うまちづくりを推進することで良好な住環境を創出し、全ての世代が快適に暮らし、互いに支え合うまちなかを目指していくということです。そういう都市的な生活利便性もあり、かつ公園、緑といった安らぎ空間も兼ね備えたようなところが中心市街地の住環境のイメージで、それこそが目指すべき住みたいまちではないかということで、文章を修正していただいているというのが前回の意見を踏まえた大きな修正点ではないかなと思います。

今申し上げた、将来像をもう少し魅力が伝わるものにしてはどうかという御意見は再度秦野委員からありましたが、市として対応を何かお考えであればお願いいたします。

【事務局】

秦野委員からございました内容といたしましては、歴史・文化資源と暮らしやすさがイメージできるようなものという御意見を頂いております。将来像につきましては、先ほど委員長からも申し上げましたとおり、マスタープランに則した将来像としておりますが、歴史・文化というのは重要なキーワードだと考えており、事務局といたしましては、例えばまちの将来像のサブタイトルを掲げて、少し補足をさせていただければと考えているところであります。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

歴史・文化を活かすということは今回のグランドデザインの中でかなり出てきている考えかと思っています。それを表現することになると、この将来像にサブタイトルをつけて表現するというようなことですが、皆さんいかがでしょうか。

具体的ないい言葉が今すぐ思いつきませんが、歴史・文化を活かしてというようなニュアンス、

中心市街地の魅力を表すようなキーワードをサブタイトルに入れていくというところでよろしいでしょうか。

【犬飼委員】

付け加えさせていただいていいですか。

人を呼ぶこと、それと市民の人も憩いの場として出て行ってもらおうということで、歴史・文化というのは非常にいいと思います。小牧も、近世城下町と城の組み合わせた日本に誇る小牧山城と城下町が小牧山で始まったわけです。それが大阪とか京都で残って、今まちづくりだとかというのは言ってみれば、全部小牧がルーツですが、ただ、それをどうやって活かすかとなった場合に一番問題なのは残っていないことです。どこにあるの、この下って言わないといけない。僕らもガイドやっていて、パンフレットとかだけで説明しても、なかなかイメージとしてわからないというのが非常にあります。

また、今、小牧山小牧山って皆さん言っていますが、いろいろ勉強してみると、小牧山自体は信長の築いた石垣って売り出して有名になりましたが、城下町の史跡の中の比重とすれば、単純に言うとは非常に低い。はっきり言って今現在石垣のことで話題にする学者はもういないです。三好長慶がもっと早く作ったとかは出てきますが、小牧山城の石垣がどうだと話題になることはあまりない。ということは、やっぱりセットで信長の後の歴史にどれだけ影響を与えたかということがわかるようにしていかないと、多分飽きられてしまうというがあるので、その辺りを頭に置いて歴史・文化を考えていかないといけないと思う。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

大変重要な御指摘だと思います。キャッチフレーズで歴史・文化と書けばいいというものではなく、その重みを感じて、実際の施策を実行していかないといけないというお話ですね。

【犬飼委員】

はい。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

どうぞ、高橋委員。

【高橋委員】

都市計画課にお聞きします。駅前から小牧山までをシンボルロードとしていますが、小牧警察署のところがきれいに整備され、車がかなり通るようになったかと思います。歩車分離というのは、確かに昔はよかったと思いますが、今は車の通過道路ということでしかないですね駐車場がないということもあるかもしれませんが、止まるということがほとんどないです。

福井のどこの町だったか忘れてしまいましたが、道路のところに駐車スペースが作ってあってすぐ買い物ができるようになっていっているところがあります。オーストラリアでいうと、ケアンズがそうですね。今後、シンボルロードをどういうふうに整備されますか。幾ら歩道を整備しても、通過道

路ではシンボルロードにはなりませんよね。将来的にどういうふうに考えてみえますか。

もう一点、定住について、20代とか30代の転出者が多いとなっていますが、こども・夢チャレンジといって打ち出しているので、育休中の保育園の利用や子どものワクチン無料化など今後より一層充実させていって欲しいと思っています。これは都市計画課とは違いますが、資料についていたのでついでお話ししました。

すみません、以上です。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

シンボルロードといっても、沿道が魅力的なものでなければ、そこに立ち寄ったりすることもないというところで、沿道の魅力づくりというものをしっかりやっていかないといけないという御意見かと受け止めましたが、そういうことでよろしいですか。

それに関しては、この計画の中に沿道の魅力づくりとして複数出てきていると思いますが、さらに追加して書いた方がいいというのは何か、高橋委員のお考えはありますか。

【高橋委員】

道路に関してですか。

【大塚委員長】

道路ではなく、沿道に魅力的なものがなければ単に通過していだけで立ち止まってもらえるような魅力を作っていけないといけないのではないかということと思うのですが。

【高橋委員】

私が思うのは、例えばイベントをやっても、今の法律では飲食店は歩道を使わせてもらえませんよね。歩道を使ってイベントをやろうと思っても無理ですね。

小牧山まであまりにもきれいな道ができ、向こうへ抜けていく車も多いということで、例えばあそこを一方通行にして上手に駐車スペースを作るとかすれば、通過するだけじゃなくて、まちも見ていただけるのではないかなと。

もう1つ言うと、多様化した商店がないですね。今のまちはネイルサロンか保育園か美容院、そればかりに思います。それではやはり来ようかなという雰囲気にもなりませんよね。

飲食店飲食店って皆さん言われるので、私たちも努力してやったこともあるのですが、やっぱりどうしてもオーナーさんが貸さない。本当に何かがあるかもしれないから貸さないと思うんです。火事とか。例えば、私の家の隣が昔美容院で、飲食店をやりたいという人がいてオーナーと話していたのですが、飲食店は煙が出たり汚れるから困ると。そういうことに関して市役所が何らかの補償をするとか、考えをオーナーさんに持っていくとか、そういうものがあれば、まちづくりがまた変わってくると思います。

【大塚委員長】

わかりました。多くのご意見を言っていただきました。

最初の道路の話は、市街地の中での交通アクセスを体系的に整備して、もう少し有効に道路空間

を使えるようにしましょう、という話でいいですか。

【高橋委員】

はい。

【犬飼委員】

私も高橋委員のおっしゃったことは思っていました。言ってみると、沿道が殺風景だと思います。コンクリートと石とかね。そういうところでいい道路があったら、確かに止まる気がないですね。

突拍子のないことですが、駅のところに公園を作って、小牧山が反対側にあって、その間も公園にしちゃったらどうかなと。石じゃなくて木タイルを使うとか、いろんなやり方があると思います。あまりにも緑がないのでどうしてもここを歩いてみようという気にならない。夏は特にそうです。

図書館に結構行きますが、たくさん人はいます。でも、この人たちはこの後どうするかとなったら、すぐ帰ってしまう。そういう人たちをまちにとどめておくにはというのを考えながら、あの道路自体をそういう感じにさせるというのが必要かなと思っていました。

とりとめのない話で申し訳ないですけれども、公園をつなげる公園ができるといいなというのは思っていたので、参考までに。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

できれば今のようなお話を、計画案のどこに関連していて、何ページの中に盛り込んだほうがいいのではないかと御指摘いただけると反映させやすいです。

形式的なことでは申し訳ないですが、今日の皆さんの意見を踏まえてパブリックコメントにかける案を作りたいと思っておりますので、ここに入れるといいのではないかと提案を頂けると計画に反映させやすいかなと思います。

【犬飼委員】

とにかく緑と木陰です。それをつけるだけでも、この道路の殺風景さというか、コンクリートが周りにずっとあるような格好で歩くことが少なくともなくなるかなと思います。プランターとか植栽ではなくて、木というのが頭の中に出てきます。

【大塚委員長】

道路の緑化とか計画案にありましたか。

【犬飼委員】

書いてありますが、どうしても植栽とかにいつているような感じがします。あそこは絶対に木陰が要るなと思うので、アーケードとかだとあまりにもつまらないし、もう少し工夫できないかなと思います。そこまで煮詰まっていないので、どうやったらいいのかは全くわかりませんが。

【廣瀬委員】

今のお話を聞いていて、まちというか沿道に魅力がないというところも確かに課題があると思い

ます。私もいつもあの道を通っていますが、目を止めてというものがないなと感じます。住んでいる人間が足を止めてみようかなというものが実際にないというところがリアルなところだと思います。

施策を見ていると、緑を見ながら歩きたくなるとかいう表現もあります。緑を見ながら歩くって日頃あまりやらないのがありますし、散歩とかウォーキングする人はあるかもしれませんが、わざわざ行くというところに緑だけでは何か足りないし、歴史だけでも足りないかなと思いました。

若い世代の方って何を求めてどこへ行くのかなと考えたときに、やはり華やかなものとか、いわゆる“映える”もの。写真を撮って、みんなにここ素敵だよって言いたくなるような、視覚的に素敵だと思うものが足りていないのかなという感じがしました。

ではどうしたらいいのかと考えた時に、本当にできるかどうかは別の話ですが、例えば街並みのカラーを統一するとか。多様なお店や建物が並んでいるのですごく殺伐としている感じがします。この建物は茶色、この建物は白とか、それぞれの建物を建てる人の意思での色になっていますが、街の中にあるので色合いを整えることにパートナーシップとして協力関係や、壁画をそろえとかいうところで街全体が統一感のある、見せる街みたいな形ができれば、市民も行ってみたくていいかなと思います。引きで見たときに小牧の街っていいなという、写真を撮ってSNSに挙げたくなって、そこに行ってリアルに見てみたくなるとか。

先ほどの小牧山の石垣だけではというお話も、それはあるなと思って聞いていました。歴史に興味、関心ある方でも、歴史の残っている物っていうだけではと思いました。信長のその後という歴史の部分とか、イメージとしてそういうストーリーが描けたりするような壁画だったりとか、それがどんなデザインなのかわかりませんが。

でも、メナード美術館とか、美術に詳しい場所もあると思うので、パートナーシップでデザインの部分も街に描いてみたりする。色合いとか映える街っていう、そこが何となく整っていない気がします。ちぐはぐな感じがします。

どなたがどんな役割で、ということは次の話になってくるのかもしれないですが、まちづくりというものを考えたときに少しちぐはぐな部分を感じました。街を引きで、写真で見たときに、歴史的なものもあれば都市的なものもありますが、こっちを向いたら歴史的な整った統一のビジュアル、こっちを見れば都市の整ったビジュアル、というふうだとより訪れる。

初めて訪れる方も、写真を撮って帰りたいと思わせる何かが足りないような気がしています。そこがデザイン的な力なのかわかりませんが、そういうのがあるといいのかなと思いましたので意見として言わせていただきました。

以上です。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

訪れたいまちで、歩いて楽しむことができるとしていますが、やはりそれには見た目、“映える”という言葉が使われていますが、見た目で人を惹きつけるようなものがないと、なかなか訪れてもらえないのではないかな。

いろいろな方針を掲げていますが、トータルとして小牧の街はきれいだな、素敵だなと見た目でそう思ってもらえるような街にしていけないといけないということかなと思います。

【廣瀬委員】

そうですね。若い世代の方に来てもらって、何ならここに住んで、いつもこの街を見ていたいって思ってもらいたいという考えがあるなら、いつも素敵だと思えるビジュアルが欲しいなと思いました。

【大塚委員長】

そうなりますと、景観まちづくりの役割も重要になってくると思います。

この計画の中で、景観についてはどこかに記載してありましたか。「訪れたいまち」の取組方針で、地域資源や景観などの魅力を活かして、という部分ですね。景観などの魅力とありますが、魅力ある景観自体がまだないのではないか、これ自体を作っていかなければいけないというお話だと思います。

1-3 の③に景観づくりの話は出てきますが、街全体としての景観というものでしょうか。

【廣瀬委員】

そうですね。この中心市街地グランドデザインで掲げている地域全体というのか、デザイン性を統一できるなら統一したほうがいいと思っています。少し首をこっちに向ければこういう景色が見られる、こっちを見ればこっちの景色が見られるというのがあるといいです。景色は違うけれどもトータル的につながっているようなもの。緑や道の広さも活かしつつにはなると思うのですが。

若い世代の方に来てもらいたいというか、もっとシンプルにきれいだなと思わせる、トータルできれいだなと思わせる何か。楽しそうだな、何かわくわくするなっていうところがないと、わざわざ靴を履いてそこへ行って何かをしようという気持ちにならないと思ったときに、写真撮って帰りたいというだけでもそこに行く。そこにさっきの飲食店とかあるといいなと思います。なかなか飲食店が入ってこないというところが課題かもしれませんが。それも含めてデザインの中に入れるとよりいいのかなと思います。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

市で景観の計画を作られていたかと思いますが、それをこの中にはめ込めることはできますか。できるのであれば、そうした計画に基づいて中心市街地の景観形成を図っていきます、という内容は入れることができるかと思います。そこを確認していただいて、既存の他の個別計画との整合性を図り、可能であれば入れることを検討していただければと思いますが、どうですか。

【事務局】

検討させていただきたいと思います。

【大塚委員長】

ほかにいかがでしょうか。

【副島委員】

26 ページの施策 2-1 まちなか居住の推進の①が、かなり市が主体性を持ってやれる分野だなと思

います。これは多分、18 ページの若い世代の定着を図るということに絡んでいると思います。

前回、土地利用の高度化というのが出ました。私自身も、前は結局高層マンションか、と思いました。ただ、冷静に考えてみると、私も小牧に宅地を買って家を建てて、すごく苦労してやってきました。今の若い人たちにそれを要求できる状況なのかなということです。だから、マンションというのはある意味では現実的な考えかなと思います。

小牧はアパートはいっぱいありますが、ほとんど単身者ではないかと思っています。夫婦もみえると思いますが、子どもを育てられる住空間ではないような家が多いかと感じています。子育てとか子どもという話があると、そういう世代、そういう家庭が暮らせるという、ターゲットになるようなものを考えてやらないと書いてあるだけで終わってしまうという気がします。

もう1つは、小牧は空港の影響で高さ制限があったかと思っています。高層ビルは建てられないので、そう無茶苦茶なタワーマンションができてしまうということはない。そう考えると、やりようによっては子育て世代が入ってきやすいような住居を供給して、その人たちが満足できるようなまちづくりをやっていくというのが結構現実的かなと思います。

ある程度の人がいないと、こういうものが整備できるといいね、こういうのもできるといいねって、いいねは言えるけど、できるってということにはつながらないかなと思います。

もちろん、その世代が来るということになると、先ほどもありますように、子育て支援というのも今までの支援でいいのかという問題があります。本当に小牧に移り住んで子育てをしたいと思えるような施策が要ると思います。

前は、私もマンションなんか造って何になるのだろうと思っていましたが、自分たちの子どもたちが自分たちの力で何ができるかといったら、マンションを購入するというのが精いっぱいなのかなと思いました。庭付きの家というのはかなり難しい話かもしれないなと思い、現実的にはそことうまく組み合わせるような形に持っていかないと、作文で終わってしまうなというのは思います。

【大塚委員長】

26 ページに書かれている記述自体は、特に修正ということではないということによろしいですか。

【副島委員】

私自身の感じで言いますと、民間再開発の活性化支援とか、①で多様な手法によるというのが、いいようですが、要するにそれぞれの開発に任せますよっていうふうにも聞こえます。ある程度市のほうも最終的にこんな姿に持っていきたいというのがあれば、そこに誘導するような施策はできるのではないかなという気がします。ただ任せるだけではなくて、ここは規制をするけど、こういうところは支援をするとかいうのがあって初めて、こういうのが出てくるのかなという気はします。

【大塚委員長】

よくわかりました。

おそらく、この①で書かれている施策が、住宅供給の手法が並べてあるだけなので、これだけでは何をやって、それによって出来てくるもの自体がばらばらでちぐはぐになってしまったらよくない。どういう街を目指していくのかというところがしっかりしていないといけないということかと思っています。

それについては、先ほども申し上げましたが、取組方針の下に、イメージする住みたいまちを書

いただいているので、そうした街にしていくためにこういう手法を使うということだと思います。

通常だと若い人たちは、教育とかいろんな子育て環境が整っているというところで郊外に住んだりしますが、小牧のこの中心市街地は、子育てにとって必要な施設も整っているし、歩いていける範囲に緑豊かな公園とか文化的な施設もあり子育てにもってこいの街にしていく、というところで各個別の事業を進めていかないといけないのではないかと受け取らせていただきました。

【副島委員】

そのとおりですね。

私の知っている方では、小牧市内でかなり離れたところに住んでいましたが、高齢になってまちなかのマンションに移られたという人もいます。若いうちは庭木などがいっぱいあっていいんですが、年を取るとほとんど面倒が見られないんですね。そうすると、高齢になって夫婦でマンションへ、という方もみえるわけです。

そういう方は、それなりの人生経験を積んだ方なので、またいろんなことの担い手になっていただくというようなやり方をしていく。若い人しか住んでいかんよというわけじゃないので、そういうまちづくりが要るかなとは思っています。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

まさに今おっしゃられたことだと思います。確かに高齢者にとってみれば、車が運転できなくなると郊外は住みづらいですが、中心市街地であれば、電車もあり駅を中心としたバスもあり、歩いて移動できる範囲内にかなりの生活利便施設が整っているから大変住みやすい。これまでは郊外の戸建て住宅だったのが、そうではなくて都心、あるいはケア付きのマンションといったところが終の棲家として選択されるようになってきて、そうした人も住んで、若い人も住んで、いろんな人たちが住む多様性のある街として中心市街地を考えていくのが必要だと今のお話を聞いていて思いました。

【伴野委員】

私は中央1丁目に住んでいますが、マンションが幾つかできました。前回も言ったと思いますが、桃花台から引き払ってこっちへ来てみえる人もいます。

ただ、高度利用ということでマンションとなると、駐車場の問題があります。例えば、うちの前に15階建てのタワーマンションがありますが、58世帯で駐車場も多分58台。今は1世帯2台は要るので、そうすると2台目の車の置き場がなくて駐車場の取り合いになります。空いた土地があればとにかく駐車場にしたいと。まちなかの高度利用でマンションと捉えていくと、今度は逆にまた広い土地が要るということになります。その辺の矛盾をどう解決していくかということも考えなきゃいけないかと思います。

私も商売をやっていて、駐車場を借りていたのがなくなり大変でした。自分のところの家を削って、3台から5台入れるようにしました。

駅前のマンションの場合は、入居したが駐車場がないからと出た方が結構みえます。利便性があるから入ったが、車を使おうと思うと駐車場がないということがあるので、非常に難しいですがそ

こをどう兼ね合いを取るかということです。

もう1つ、街の中のことですけれども、非常に利害関係が多くて、なかなかまとめていけません。例えば自治会にしても、一つにまとめればいいのではと言ったって、まとまらない。地域部会に関しても、街の中の人がいっせき反対しているので活動はほとんどできていない。ここの中に、地域協議会とも一緒にやっていくとかありますが、できるかといったらほとんどできないんじゃないかなと思います。

水野委員が会長、私が専務理事をしています、非常に危惧しているのは担い手がなくなっていることです。いろんな会議ができて同じ人が入っているわけです。これを見ていると、今度はまちづくり協議会をまた別に作るとありますが、多分同じメンバーになるのではないのでしょうか。前回言ったコミュニティ・スクールは地域で子どもたちを育てるということでやっている、そちらも同じようなものをまた別途作ると思いますが、あまりにもいろんな会議を作り過ぎじゃないかと危惧しています。その活動の担い手をどうやって作るかというところが非常にネックになっていて、堂々巡りになっていると思います。

例えば、桃花台からへ来た人が一緒にやってくれるかといったら、やってくれないですね。何もやりたくない、とにかくそんなこと考えたくない。最後までそこに住みたいという人は何とも動いてくれない。PTAがあるうちはやってくれますが、それを過ぎると活動してくれない。

私が区長をやって苦労したのは、そういう人たちをどれだけ残していくか、一本釣りをしていくか。ある程度は成功しましたが、そういう人たちも結局は生活がメインになってくるとどうしてもやれないところが出てきてしまう。人材づくりが非常に難しいです。

人づくりは非常に難しいけれども、どこかに入れてほしいということで、ぱっと見たら、地域協議会、それからこども未来館とかをうまく利用してとありますが、もっと違う方法も考えてもらいたいかなと思います。

次に、シンボルロードは確かに休むところがないです。日陰もないし、正直言って、自分が住んでいながら歩きたいと思わないです。

ハナミズキ通りって木がありますが、あれはどのぐらい伸びるんでしょうか。日陰は多分できないですね。名古屋だとイチョウとかいろんな木があって、大きい木で日陰ができています。そういった木を植えることはできるのでしょうか。もしできれば、あそこは電線がないので結構背が伸びる、葉っぱが伸びるので、入れてもいいのではないかなという気はします。

歩道上での飲食に関しては、国土交通省の資料の中で書いてあったと思います。確かやれるような気がします。私も調べてみますけど、やれないことはない、やれたらやってほしいです。

できないと思ったのは、例えば犬山だとか馬籠だとか妻籠みたいな形で色をそろえたりする、おそらく地権者の貸店舗の問題もあり無理だと思うので、違う方法で何かできないかなと思っています。

いろいろ言ってしまいました。このグランドデザインは非常にいいと思いますが、これをどうやって活用、利用してやっていくかというのはまた別問題だと思います。これはこれですばらしいと思っていますので、作ってもらえばいいのですが、個別のところはこれから具体的に考えていってほしいです。あと、聞いたところによると、ここでもマンションを建てないという話もあるような気がします。土地の高度化利用に関してでしょうけれども、住んでいる人間で反対する人は結構みえますよね。

歴史ということに関して、先ほどから小牧山の議論が出ていますが、小牧山、私はあまり知らな

いので、石垣もすごいなと思います。城下町に関しては、中学校ができ、イオンができ、今さらどうにもならないのではないかという話ですけれども、それはやはり絵図を描くなりして、どこかでできるんじゃないかなと思います。

もう1点、石垣ではなくて、信長の場合は自分の居城が上にあり、家臣は下にある。岐阜城もそうでしたが、そのような形を織田信長は取っていると思うので、それも一つ考えてもいいのではないかなと思います。

現代に近い歴史もあると良いという思いです。小牧焼って焼き物をやっていましたし、戦前までは今の農協のあたりに岩倉線小牧駅がありました。そこで戦争のために兵隊を送っていった、その跡地があります。線路の跡がずっと残っています。そういったものも保存できればいいかなと思います。そんなに古い時代ではなくて、現代のことだってまだいっぱい残せばいいなっていうことはあるので、そういったこともできれば考えていただきたいと思います。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

かなり具体的な、実際に進めていくにあたり考えなければいけないようなことに対してたくさん御意見を頂いたかと思います。

最初の駐車場については、30ページの施策3-3の③で駐車場の必要十分な台数を確保します、とあります。ここまで言っているのかという感じもしますが、解釈の仕方によっては、今の伴野委員のことについてはこのあたりで考えているということになるのかなと思いました。

教育のことについて、人材というところではいろいろなところに盛り込んでいただいているのですが、もっとほかの方法について考えてもらえないかという御発言が2つ目にあったと思います。それって、一生懸命考えて前回頂いた意見を反映させているのですが、それ以外に、具体的にこう書き込んでもらおうというのではないかというのがありますか。

【伴野委員】

多分、書きようがないかなと思います。

施設はあるので、そこへどうやって人を、子どもたちを、お客さんを呼び込むかというところの議論はしなきゃいけない。それはここには出てこないですね。そこだけだと思います。

私たちは一本釣りと言いますが、いろいろな話をしながら、この人とは思った人は仲間に入れています。そういう方法しかないのです。一本釣りする場合、引っ張り込む、それしか具体的にはないと思います。何か会合をやって、そこで同志だなと思えばその人を引っ張り込むという形しか、本当にそれしかないと思います。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

32ページに、中心市街地まちづくり協議会の設置を検討するなど、計画推進していくための組織づくりという中で、従来の人たちと同じ、単に組織の名前を変えてというようなことではあまり意味がない。実際に計画が前に進んでいくような組織を作っていくことが必要であるので、協議会を検討する際に、そうしたことを踏まえて設置していただきたいということで理解をさせていただければと思います。

【日比野委員】

日比野です。

皆様方の御意見を聞かせていただきましたが、おそらく皆様はこのシンボルロードの外側に住んでおられると思います。にぎわい隊の方は違うかもしれませんが。

私はシンボルロードの真ん中に住んでいます。そこから見たときに、皆さん方の考え方、おっしゃる内容、それぞれ理にかなっているというか、それぞれ自分の考えでお話しいただいているので、それはそれで結構だと思います。

ただ、おっしゃるようにシンボルロードのまちなかは空き店舗とかありますが、やすらぎみちは、神社仏閣があつて、さほど空間に余裕があるとは思えません。

児童遊園が2つあり、それから解体が始まった旧図書館跡地。そういった場所を有効利用するという方向にあるのではないのでしょうか。駐車場として利用されている私有地はありますが、確かにまとまった敷地はあそこしかないと思います。そこにマンションという話はやめてほしいと思いますが。

先ほど緑という話が出ましたよね。小牧1丁目のところから犬山方面の通称公園線ですかね。あの道路の両側にポプラの木が植わっています。電線があるからと思いますが、枝葉が伸びるとすぐ剪定してしまって、これでは緑という感覚はまるでないですよ。落葉なので、付近の人たちに迷惑をかけるということでああいう状態を保っていると思います。恐らく電線地中下に伴って、やすらぎみちで、緑の高木で日陰ができればとお考えかと思います。高木は日陰を作りますが、シンボルロードから小牧山の眺望は望めません。また、周辺の人たちにもものすごい枯れ葉、落葉をまき散らすと思います。今、旧図書館の中に1本大きなケヤキがあります。多分これもカットされると思いますが、そのケヤキは猛烈な枯れ葉をおとします。そうすると、半年ぐらい枯れ葉の掃除で付近の住民は非常に迷惑するということになります。

だから、これまでは剪定を図書館のほうに依頼していました。神社のほうも市道路課にお願いし、我々も協力してやっていますが、すごい落ち葉です。それから、クスノキが多いので、クスノキは花が咲いたあと、ものすごい落ち葉と茎を落します。数年前、掃除に困るということと、小牧駅のほうから小牧山が見えないということでかなり剪定していただいた。またいずれお願いしなきゃいけないかもしれません。

道路の清掃を市にもかなり協力していただけていますが、それを思うと維持するのはかなり難しいのではないかと感じます。先ほどから出ている高齢化で、年々人材がいなくなって、どこも非常に困っているとは思いますので、緑の問題も痛しかゆしですね。要するに、癒しにつながる緑を欲しがるのはいいことで、住民も同じです。来訪者は一時期1か所、一過性でそこを見る、それはそれでいいと思いますが、そこに住む人のことを考えないといけません。

日光を遮るようなものを作るのも非常にいいアイデアだと思います。ベンチを作るのもいいアイデアだと思いますけれども、今後具体的なものに移ってくるとは思いますが、よろしく願いいたします。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

ここに書かれていることはそれぞれ素晴らしいことですが、実は、その一方でいろんな問題が発

生しているという現実もあるので、そこも含めて考えていかないといけない。まさに現場というか、その中で生活をされている方の立場からの御意見だと思います。実際にやっていくときにそういう考え方でやっていく、その確認ができればいいかなと思います。

【鶴田委員】

皆さんのお話を聞いていて、それぞれの御意見全てごもつとも感じました。

私も 30 年ぐらいまちづくりをやっていますが、それをどう調整していくのかが都市計画、まちづくりで一番難しいところです。

今回のこのプランは、まず 3 つの「訪れたいまち」、「住みたいまち」、「活力があるまち」、それぞれの取組方針までは皆さんおそらく合意されていると思います。そこまで、このプランの目的は半分達成なのかなと思います。

ただ、一方で、歩いて楽しい道に本当になるのか、緑とやすらぎでちゃんと緑道ができるというのが皆さんすごく不安に感じていて、それを市も一応気にして取組の中に実施中など書いてあり、これはやっています、みたいなことをアピールしていただいています。

このプランで重要なのは、やはり第 4 章に書いてあるところが本当にできるかということだと思います。そうなったときに、例えば PDCA と書いてあって、33 ページの目標、「訪れたいまち」の評価指標は中心市街地の来訪者数と書いてありますが、これはおそらく総合計画などから持ってこられたと思います。

以前、鎌倉かどこかで、こういう施策を、これやれました、これやれていませんと、一覧表にされていたのを見たことがありました。

少し大変かもしれませんが、例えば書いてある施策、緑道何メートルできました、とか、そういうのがあると、作りっ放しではなくて、緑道これだけできたねとか、これだけベンチできたねとか、そう思えるような目標の指標というか、少しほかとは作り方が違うかもしれませんが、そうされると、このプランに関わった方々も確認できるのではないかなと思いました。

もう 1 つは、緑の話。岐阜市でも、もう 20 年ぐら前に街路樹の落ち葉の手入れができないから切らなくてはいけない、どうするって話題になりました。駅前のところもなるべく木をたくさん植えたいという話になり、森の木をものすごく植える予定だったのですが、周りの方からすごい反対があって頓挫して、計画が途中で終わってしまったことがありました。

なので、緑ももちろんあったほうがいいので、作ることはいいと思うのですが、1 個 1 個施策を新しくやっていくときに、地域の人や周りの人、市民の人を巻き込みながら、どうやって緑を作っていくのかという話をする。そういうやり方をしないと、多分 1 個 1 個が難しいと思います。

例えば緑の作り方でも、休憩するって言っているのに緑が続いている必要はないと思います。そうしたら、例えば社寺がありますよね。塀が立っていると思いますが、社寺が開いてくれて、そこにある木陰で少し休憩できるスポットにしてくれる。できるかどうかわかりませんが、そういうことでもいいし、空き地があればそこをポケットパークみたいにするとか。点々とあればいいかもしれないとか、作り方をそのときそのとき考えていく必要があると思います。

目標は皆さんの合意が取れているわけだから、あとは作り方だと思います。それぞれのタイミングでどう作っていくのか、どこまで書き込むかわかりませんが、私は 4 章が勝負かなと思いました。

そう思ったときに、32 ページの上の 2 番の図。私が前回こうしてほしいと言ったのですが、これを見ると、市民・商店・来街者が中心市街地の活性化をするみたいに見えます。協働でやっていく

このスパイラルを上げていって中心市街地を活性化するような、三次元表現になるかもしれませんが、この表現が気になりました。市民・商店・来街者が中心市街地を活性化するように見えるなど気になりました。

以上です。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

今のお話で、まず、施策ごとに細かく指標を設定するという部分を見える化したほうがわかりやすいのではないかというお話でよろしいですか。

【鶴田委員】

指標と言うと大変になりますので、やれましたかやれませんでしたかという形。都市マスなどでも、施策があって、それにバツや三角・二重丸をつけて次の都市マスを策定するってよくあることなので。それを見て、バツは絶対ないではなくて、どうしてできなかったかを検証する。そこでプランを変えて、この施策はできないから二重丸の施策に引っつけようかとか、そういう議論ができると思います。

今掲げている指標がそういうふうに活かさない気がしたので御提案しました。

【大塚委員長】

市に確認したいと思いますが、おそらく 33 ページの 3 つの指標は、グランドデザインの大きな目指すまちの姿に対応したもので、具体的な個別の施策等についての進捗管理についてはアクションプランを作って細かく進行管理をしていこうと考えてみえると思いますが、いかがですか。

【事務局】

委員長からもお話がありましたが、このグランドデザインを策定させていただいた後に、来年度から施策の実施計画であるアクションプランというものを立てていきたいと考えております。いろいろな施策、取組が考えられるわけで、その中でまず何が重要か、何が手をつけられるかということところを精査していきたいと考えております。

そういった中で、アクションプランの実効性なども検証しながら、先ほど鶴田委員からもありました方法を考えながら進めていきたいと考えております。

【大塚委員長】

よろしいでしょうか。

もう 1 つ、32 ページの上の図ですが、確かに、今のお話を伺ってそうかと思いました。「連携・協働」と真ん中に文字が入っていますが、ここに「中心市街地の活性化」を持ってきて、3 つを双方向の矢印で結んでいるところに「連携・協働」という言葉を張りつければ、それぞれ 3 つが「連携・協働」しながら中心にある中心市街地活性化に取り組んでいきます、という表現に見えるかと思いましたが、それで大丈夫でしょうか。

【鶴田委員】

はい。

【大塚委員長】

それでは、そういう形で図は修正していただくということでよろしいですか。

【事務局】

修正いたします。

【犬飼委員】

緑化の話です。

27 ページに記載してある施策ですが、これらを単独でやらないようにしてほしい。駅の公園はこの部署、シンボルロードの緑化はまた別の部署とか。そうではなくて、全部関係があると思うので、まとめてやってほしいなというのが大もとです。

みんな緑でつながりますよね、というふうに書いてありますが、それぞれが別個にやるとばらばらになると思うので、その辺りお願いしたいです。

先ほど日比野委員が言われたように、落ち葉ってというのはどこでも問題になります。

私が小さいとき社宅にいましたが、社宅のところの街路樹はヤナギが植えてありました。ヤナギは意外と葉っぱが少なかったような気がします。枝が垂れるから薄い影が日陰みたいになって。枝を切ると刀が簡単にできてそういう遊びをしたのを思い出しました。

計画の中に実施中という記載がありますが、もう実施しているのならば、どういうふうになっているのか、聞かせてもらえるといいなとは思いました。そうでないと、また個別になりそうだなという気がしました。

【大塚委員長】

行政内部の縦割りでやってもらうのではなくて、横の連携を取ってやってください、ということによろしいでしょうか。

【犬飼委員】

せっかくこれだけのことをやるので、全体で考えて個別に落としていってほしいです。

【大塚委員長】

一応 32 ページの 3 の計画の進捗管理の 3 行目のところに、行政内部の関連部署による継続的な連携体制を構築し、関連部署で連携してやっていきますと書いてありますが。

【犬飼委員】

わかりますけどね。やっているとなると、少し違うよねという気がする。

【大塚委員長】

単に言葉で書いてあるだけではなく、実際にやってくださいねという話かなと伺わせていただきました。

残りの時間が限られてきていますので、今日欠席の委員の方から幾つかありますが、先ほど、秦野委員の話については市のお考えをお聞きしました。

水野委員の意見の中に、今後整備される駅西公園とにぎわい広場は道路で分断されているために、そこを歩行者天国にするなどして一体的利用できるイベントを開催してはどうかということが書かれています。このイベント開催時に道路を規制するということはいいいのではないかなとは思いますが、現在、駅から図書館やにぎわい広場へ行くには、少し南側の交差点まで移動して横断しなければいけないという状況の中で、今後、駅西公園が整備されれば一層にぎわい広場までの動線が重要になってくると思いますが、市として何かお考えはありますか。

【事務局】

水野委員からありました意見についてであります、イベント時に、駅と図書館の間に1本南北に道路が通っておりますが、そちらを規制することなどにより一体利用を検討することは可能だと考えております。

ただ、常時の駅からにぎわい広場や図書館といった場合の動線については、市としても課題であると考えております。一体利用ができる方向があるのかどうか、なかなか難しい問題ではありますが、今後検討をする余地はあると考えております。

【大塚委員長】

ありがとうございました。

加藤委員、よろしいですか。

【加藤委員】

29 ページの施策の3-1 がどちらかかといえはハード面の施策で、3-2 がソフト面の施策だと思います。高橋委員も言っていたように、この空き店舗問題というのはずっと前から言ってきたことですが、実施中になっちゃっているんで、これではパンチ力もないし、また何にもならない10年になってしまうように見えます。もう少しにぎわいに特化したお店にこのような協力をしますとか、こういう施策にするということをもう少し強く言わないと、ただやっていますになってしまう気がするんで、もう少しパンチ力のある言葉を入れたいなと思いました。

また、空き地の有効利用というのは、市有地の空き地なのか民間の空き地なのかははっきりしない。しかも、想定される取組にそれが書かれていない。例えば市の空き地だとしたら、図書館跡地を住居として売却するのではなくて、市が管理して活力があるまちに使えるようにします、みたいなことを言ってほしいなと思いますし、民間の土地だったら、こんな協力をして民間の空き地をこういう施策の中で取り組んでいきますよと、書けるかどうか分かりませんが。

【事務局】

空き地の活用ということに関しましては、民地と官地、事務局側の認識としましては特に分け隔てなくという考え方でおります。有効活用ということで、今言われました官地も有効活用が望まれるところですし、民地の空き地があればそこもぜひ活用させていただきたいといった内容であります。

ただ、パンチのある表現については、具体的な取組内容になる部分でもありますので、委員長と

も相談しながら検討してまいりたいと思います。

【大塚委員長】

ありがとうございました。

そろそろ時間が来ましたので、整理させていただきたいと思います。

皆さんからかなり多くの意見を出していただきましたが、その多くは、実際にこの計画を進めていくに当たって配慮すべき考え方を改めて皆さんから御発言いただいたのではないかなと思います。この計画の策定に携わった皆さんは、どういう考え方でこの計画が作られているかというのは理解できていても、その考え方をより多くの人で共有していく必要があるだろうというのがまず1つ。

この計画の内容について、具体的に修正や検討すべきところが、来街者、来訪者という言葉の使い方の精査。先ほどの指標のところでも、来訪者数という言葉で指標として挙がっているので、用語の整理を再確認するというのが1点。

次に、“映える”まちということで、既存の景観計画との整合性で何か書き込めることがあれば書き込むというのが2点目。

鶴田委員からのご指摘で、32 ページの図を修正するということが3点目。

4点目が、加藤委員からもお話がありましたけれども、空き店舗の有効活用というところで、パンチのあるものということになるかわかりませんが、たくさん意見を出されている部分でもありますので、さらにより具体的な内容が書けるかどうかも含めて、事務局と私で検討させていただいたものをパブリックコメント案としてパブリックコメントにかけさせていただきます。

パブリックコメントの前には、修正案を委員の皆様にお送りさせていただきます。それをパブリックコメントにかけて、パブリックコメントで頂いた意見をどう計画の中に最終的に反映させていくかというところを次回御検討いただいて、最終案としていきたいと思っております。

そういう進め方でよろしいでしょうか。

【廣瀬委員】

1つ言い忘れたのですが、いいですか。

先ほど“映える”まちと意見を出させていただきましたが、小牧市は韓国だとかアメリカとか北海道とか、姉妹友好都市を結んでみえたと思います。参考になるまちづくりの景観というところでは、安養市なんかは60万人の都市で、駅前とかすごく華やかだったりするみたいなので、既存の関係性の中で参考になる町の景観というところも入れていくと、裏づけとしてここを参考にさせてもらったよというようなデザインの進め方もできるかなと思ったので、付け足して意見を言わせていただきました。

以上です。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

それでは、今後の進め方については御了解いただけたと思いますので、議題（4）その他に移りたいと思います。

その他、事務局から何かございますか。

【事務局】

その他といたしまして、本日の会議録につきましては、事務局で作成した後に委員の皆様へ送付させていただきますので、御確認をよろしくお願いいたします。また、その後、市役所内の情報公開コーナーと市のホームページにて公開させていただきますので、よろしくお願いいたします。

なお、先ほど委員長からもありましたが、本日頂いた御意見などにつきましては、事務局で委員長と調整させていただきます。調整後のパブリックコメント案につきましては、委員の皆様へ後日送付させていただきますので、よろしくお願いいたします。

今後の予定といたしましては、来月 12 月 16 日から 1 月 14 日にかけてパブリックコメントを実施する予定としております。その後、第 4 回の策定委員会でパブリックコメントの結果報告と最終の計画案をお示しする予定であります。

以上であります。

【大塚委員長】

ありがとうございました。

予定しておりました議事はこれにて全て終了になります。

皆さんからたくさんの御意見を頂きましてありがとうございました。

それでは、事務局にお返しいたします。

【事務局】

委員の皆様、本日はお忙しい中、長時間にわたりまして御議論いただきましてありがとうございました。

以上をもちまして第 3 回小牧市中心市街地グランドデザイン策定委員会を閉会いたします。

本日はありがとうございました。